

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●サマーシリーズ各部門のチャンピオンが決定

ヴェローチェエラのサマー2000シリーズ優勝に続いて、その他の各部門でもチャンピオンが決定しました。サマースプリントシリーズは第1戦・函館スプリントS(GⅢ)4着、第4戦・CBC賞(GⅢ)1着で計13ポイントを獲得したインビンシブルパパ(牡4歳／美浦・伊藤大士厩舎)が、サマーマイルシリーズは第1戦・しらさぎS(GⅢ)1着、第3戦・中京記念(GⅢ)5着で計12ポイントを獲得したキープカルム(牡4歳／栗東・中竹和也厩舎)が、それぞれ優勝。サマージョッキーズシリーズは小倉記念(GⅢ)1着などで計35ポイントを獲得した松若風馬騎手(栗東・フリー)が初優勝を飾っています。

●坂井瑠星騎手がJRA通算600勝を達成

9月6日(土)の4回阪神1日・第2レースではバドリナートが1着となり、同馬に騎乗した坂井瑠星騎手(栗東・矢作芳人厩舎)は、現役30人目となるJRA通算600勝(5569戦目)を達成しました。

●池添謙一騎手がJRA重賞レース100勝を達成

9月6日(土)の2回札幌5日・第11レースとして行われた札幌2歳S(GⅢ)ではショウナンガルフが1着となり、同馬に騎乗した池添謙一騎手(栗東・フリー)は、史上12人目・現役7人目となるJRA重賞通算100勝を達成しました。

●札幌競馬リーディングジョッキーは横山武史騎手

9月7日(日)をもって本年の札幌競馬が終了し、1回札幌・2回札幌で計18勝をあげた横山武史騎手(美浦・鈴木伸尋厩舎)が、自身2年ぶり4回目となる札幌リーディングジョッキーに輝きました。

●高木登調教師がJRA通算400勝を達成

9月6日(土)の4回中山1日・第12レースではドナカルナバルが1着となり、同馬を管理する高木登調教師(美浦)は、現役40人目となるJRA通算400勝(延べ5082頭目)を達成しました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●レジェンドバローズら無敗馬4頭が重賞勝ち【各地の2歳重賞】

ビギナーズC(8月31日、盛岡、1,400^円)は、4番手を進んだ単勝1.5倍で1番人気のレジェンドバローズ(牡、父コパノリッキー)が残り200^m標識の手前で逃げ馬を捉えて7馬身差を付け、デビュー以来3連勝。フルールC(8月20日、門別、1,200^円、牝馬)は、3番手から3、4コーナー中間で抜け出した単勝1.4倍で1番人気のリリーCの覇者リュウノフライト(父ホッコータルマエ)が4馬身差で完勝し、いずれも牝馬限定戦ながら無傷の3連勝を達成。ルーキーズサマーC(8月20日、浦和、1,400^円)は、後ろから3頭目という位置から追い上げた3番人気のロードレイジング(牡、父モズアスコット)が直線に入って間もなく逃げ馬を交わし、こちらも3戦全勝としました。ブリーダーズゴールドジュニアC(8月21日、門別、1,700^円)は、3番手から4コーナー手前で先頭に立った栄冠賞馬ベストグリーン(牡、父スマートファルコン)がそのまま押し切り、単勝1.4倍の支持に応えて初出走以来の連勝を3に伸ばしています。

●西日本3歳優駿は兵庫ラビドフィオーレ【各地の主要3歳重賞】

西日本デビュー馬限定戦の西日本3歳優駿(9月7日、高知、1,900^円)は、中団から差を詰めた単勝1.4倍で1番人気の兵庫からの遠征馬ラビドフィオーレ(牡、父ホッコータルマエ)がゴール前で差し切り、黒潮菊花賞に続いて高知の重賞を連勝。サラブレッド大賞典(9月7日、金沢、2,000^円)は、先手を取った単勝1.2倍で圧倒的人気のJRAデビュー馬リトルサムシング(牡、父リアルスティール)が後続を6馬身引き離して圧勝を収めました。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G3コリアカップ〜ディクテオンが制す

現地9月7日に韓国のソウル競馬場で行われたG3コリアカップ(3歳上、ダート1,800^円)は矢野貴之騎手を背に後方でレースを進めたディクテオン(騾7歳、父キングカメハメハ、大井・荒山勝徳厩舎)が香港のチェンチェングローリーを差し切って1馬身差で優勝。地方競馬所属馬としては初となる海外ダート重賞制覇を果たしました。JRA所属馬はラムジェット(3着)が最高成績でした。なお、この1レース前に行われたG3コリアスプリント(3歳上、ダート1,200^円)はC.チャウ騎手が騎乗した香港のセルフインブルーム(騾6歳、父ディーブフィールド、K.マン厩舎)が日本のチカパとの競り合いを半馬身差で制して優勝しています。

●G2フォワ賞〜ビザンチンドリームが優勝

9月7日にフランスのバリロンシャン競馬場で行われたG2フォワ賞(4歳上、芝2,400^円)はO.マーフィー騎手が手綱を取ったビザンチンドリーム(牡4歳、父エピファネイア、栗東・坂口智康厩舎)が後方追走から直線で鋭く伸びると、今年のカネー賞などG1・3勝のソジーに半馬身差をつけて優勝しました。なお、この2レース後に行われたG1ムーランドロンシャン賞(3歳上、芝1,600^円)はM.バルザローナ騎手とコンビを組んだ仏のサーラン(牡3歳、父ウートンバセット、F.グラファール厩舎)が優勝。日本のゴートウファーストは11着に終わりました。